

第14回農林水産業協力プロジェクト・リーダー会議

報 告 書

昭和60年9月

国際協力事業団

農林水産計画調査部
農業開発協力部
林業水産開発協力部

JICA
000
807
AFP
LIBRARY

農 計 画
J R
85 - 01

第14回農林水産業協カプロジェクト・リーダー会議

報 告 書

JICA LIBRARY



1056586[9]

昭和60年9月

国際協力事業団

農林水産計画調査部

農業開発協力部

林業水産開発協力部

| | |
|---------------------|------|
| 国際協力事業団 | |
| 受入 月日 '86. 4. 28 | 000 |
| 登録No. 12567 | 80.7 |
| | AFP |

序 文

農林水産業協力プロジェクトリーダー会議は、農林水産に係る技術協力プロジェクトにつき、各プロジェクトの現状、問題点及び対応等の検討並びに相互の経験交流等を通じ、農林水産業技術協力事業の円滑かつ効果的な推進に資することを目的として、昭和46年度以降毎年度開催され、本年度で第14回目を数えるに至っている。

今回も昨年に引き続き開催地を2か所に分け、中南米地域はメキシコ国メキシコ市において、アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域はタイ国バンコック市において、それぞれ60年2月14日～2月19日、60年2月27日～3月5日の間に実施された。

本報告書は、これらの会議の概要を取りまとめたものであるが、会議の様子は、この報告書に見るとおり、連日プロジェクトリーダー、関係各省、JICA関係者との間で真摯な論議が展開され、多大の成果が得られたものと確信する。

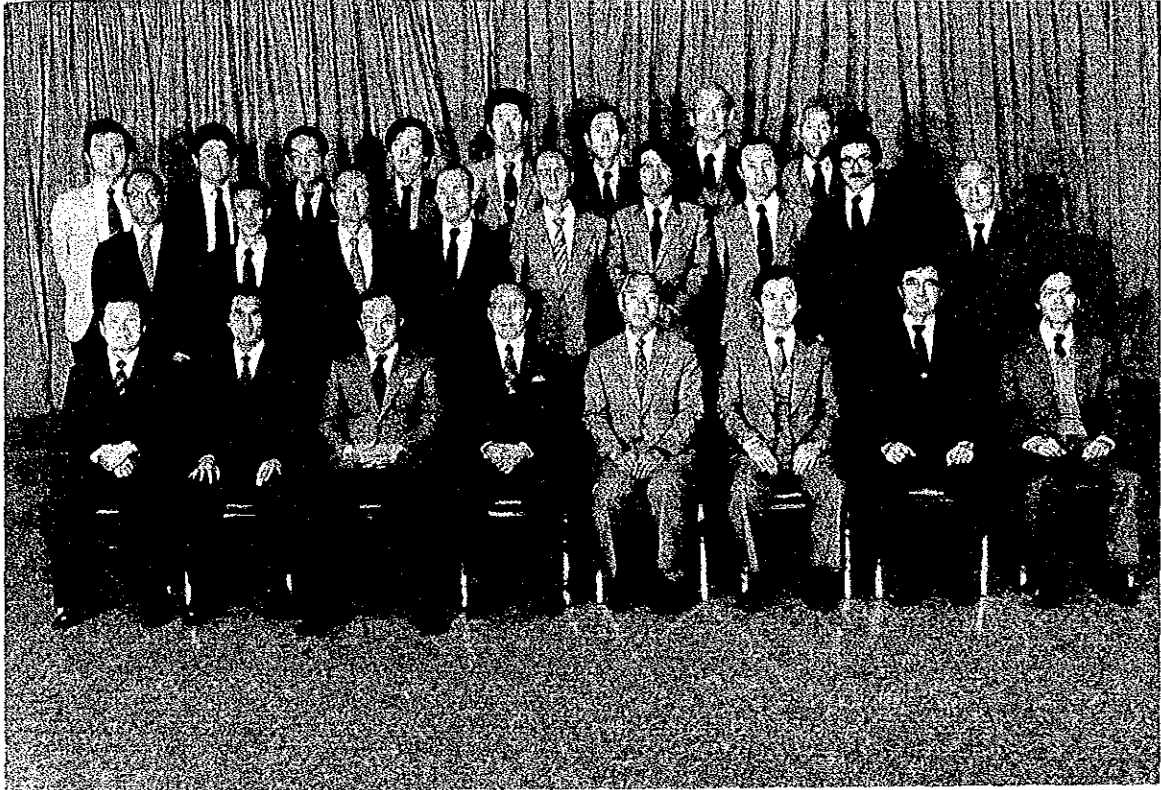
最近、農林業協力プロジェクトは、協力分野の多様化、対象地域の拡大に伴い、その運営には従来にない対応が求められることもあるが、これらはプロジェクト相互の経験交流を通じて解決が図られる点も少なくない。本報告書が今後の農林水産業協力プロジェクトの円滑な推進に役立つならば幸いである。

最後に、今回の会議開催に当たり御協力を賜った関係各省、在メキシコ日本国大使館、在タイ日本国大使館、メキシコ海外事務所及びバンコック海外事務所の関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第である。

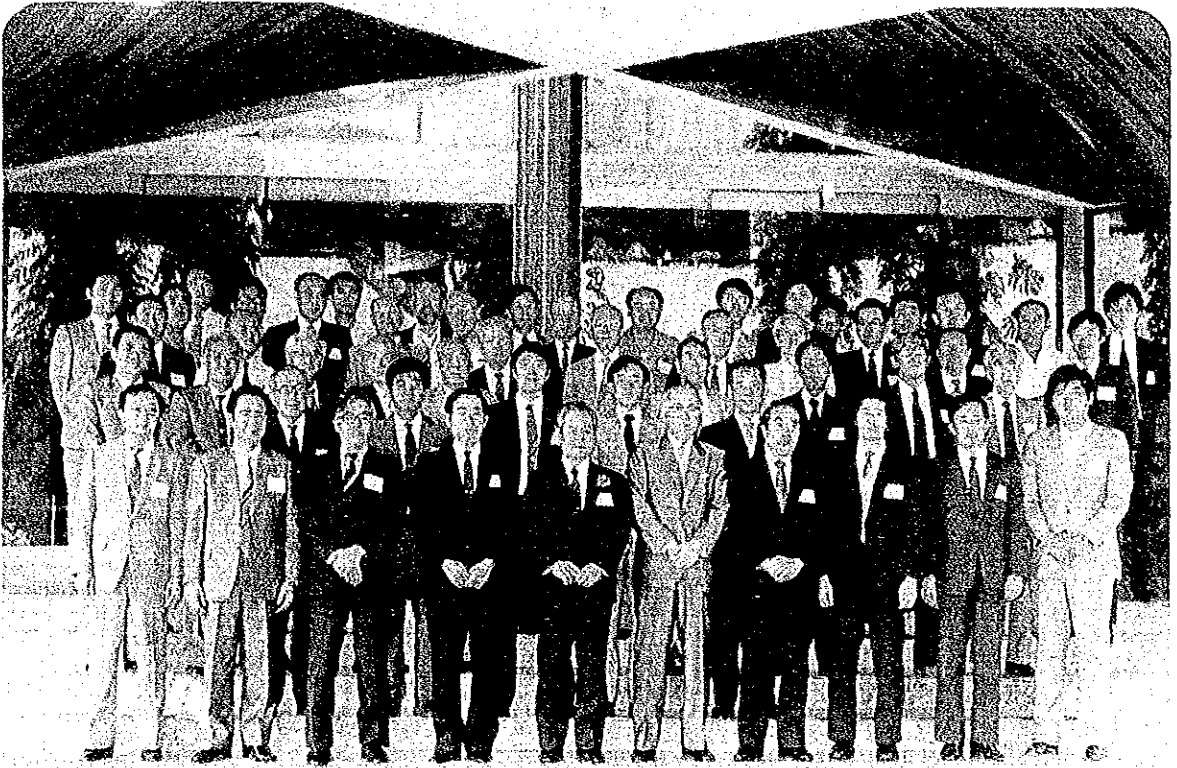
昭和60年9月

国際協力事業団

理事 山 極 榮 司



中南米地域会議（メキシコ国メキシコ市）昭和60年2月14日～2月19日開催



アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域会議（タイ国バンコック市）

昭和60年2月27日～3月5日開催

目 次

| | | |
|----|-----------------------------|----|
| I | 会議の概要 | 1 |
| A | 中南米地域 | 1 |
| 1. | 会議日程 | 1 |
| 2. | 出席者名簿 | 3 |
| 3. | 会議概要 | 4 |
| B | アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域 | 15 |
| 1. | 会議日程 | 15 |
| 2. | 出席者名簿 | 19 |
| 3. | 会議概要 | 20 |
| II | 第14回農林水産業協力プロジェクトリーダー会議実施要領 | 31 |

I 会議の概要

昭和59年度農林水産業協力プロジェクト・リーダー会議は、昨年に引き続き開催地を2か所に分け、中南米地域はメキシコ国メキシコ市において、アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域はタイ国バンコック市において、それぞれ60年2月14日～2月19日、60年2月27日～3月5日の間実施された。以下、開催地別に会議の概要を述べることとする。

A 中南米地域

1. 会議日程

| 月日 | 時間 | 議 事 等 | 担 当 者 |
|-------------|---|--|--|
| 2/13 (水) | | メキシコ市集合, 受付 | 事務局 |
| 2/14 (木) | 13:00～ ～14:20 14:20～14:30 14:30～ 16:00 19:00～21:30 | <開会式> ○出席者紹介, スケジュール説明 ○主催者挨拶 ○在メキシコ日本大使館挨拶 ○外務省挨拶 ○農水省挨拶 ○メキシコ事務所長挨拶 ○議長・副議長選出 (休 憩) ○議長挨拶 <全体会議> ○議題1「昭和59年度事業実施状況について」 ○議題2「昭和60年度予算の概要について」 ○議題3「昭和60年度事業実施方針について」 ① 経済技術協力の最近の課題について (質 疑 応 答) ○事務連絡 本部主催懇親会 | 司会 大川農計課長 大川農計課長 渡辺林間部長 内藤大使 天木外務省企画官 吉井農水省国協課長 上原所長 大川農計課長 議事進行, 議長 橋口農開課長 “ 天木外務省企画官 事務局 |
| 2/15 (金) | 9:00～10:00 10:00～11:00 11:00～11:10 11:10～12:00 | ② 研修事業の実施方針等について (質 疑 応 答) ③ 供与機材調達業務について (質 疑 応 答) (休 憩) ④ 専門家の処遇について (質 疑 応 答) | 飯島研修事業部次長 前川機材第二課長 九重技管課長 |

| 月 日 | 時 間 | 議 事 等 | 担 当 者 |
|-------------|-------------|--|-----------------------|
| | 12:00~13:00 | ⑤ プロジェクト関連業務等について (質 疑 応 答) | 佐伯水産室長 |
| | 13:00~13:10 | 記念撮影 | |
| | 13:10~15:00 | (昼 食) | |
| | 15:00~ | ○議題4「プロジェクトの現状と問題点について」 ・アルゼンチン(1プロジェクト) ・ブラジル(2プロジェクト) ・チ リ(2プロジェクト) ・ホンデュラス(1プロジェクト) | 関係リーダー " " " |
| | ~16:00 | (休 息) | |
| | 16:00~16:10 | ・メキシコ(1プロジェクト) ・パラグアイ(3プロジェクト) ・ペルー(1プロジェクト) | 関係リーダー " " |
| | 16:10~ | | |
| | ~17:20 | (質 疑 応 答) | |
| | 17:20~17:30 | 事務連絡 | 事務局 |
| 2/16 (土) | 9:00~ | ○議題5「特別議題について」 ・特別議題趣旨説明 ・座長選出 | 渡辺林開部長 |
| | 11:30 | ①「供与機材調達システムについて」 | 議事進行, 座長 |
| | 11:30~11:40 | (休 息) | |
| | 11:40~14:30 | ②「ローカルコスト確保対策について」 | 議事進行, 座長 |
| | 15:00~17:00 | リーダー主催昼食会 | |
| 2/17 (日) | | (休 日) バスツアー: クエルナバカ, タスコ | |
| 2/18 (月) | 10:00~10:30 | ○特別議題討議結果報告 | 各座長 |
| | 10:30~11:00 | ○総括質疑 | 議事進行, 議長 |
| | 11:00~ | ○各省コメント | 天木外務省企画官 吉井農水省国協課長 |
| | ~11:20 | | |
| | 11:20~11:25 | ○議長・副議長退任挨拶 | 議長・副議長 |
| | 11:25~ | 〈閉 会 式〉 | 司会, 大川農計課長 |
| | ~11:40 | ○主催者挨拶 | 渡辺林開部長 |
| | 11:40~11:45 | ○メキシコ事務所長挨拶 | 土原所長 |
| | 11:45~11:50 | ○事務連絡 | 事務局 |
| | 11:50~12:00 | (休 息) | |
| | 12:00~ | ○議題6「個別協議」 外 務 省 農 水 省 | 天木企画官 吉井課長 |

| 月 日 | 時 間 | 議 事 等 | 担 当 者 |
|-------------|-------------|--|---|
| | ~14:00 | 研修事業部 調 達 部 企 画 部 農業開発協力部 林業水産開発協力部 農林水産計画調査部 | 飯島次長 前川課長 九重課長 橋口課長、二瓶代理 渡辺部長、佐伯室長 大川課長、栗城代理 |
| | 19:00~23:00 | メキシコ事務所主催懇親会 | |
| 2/19 (火) | | (現地視察) 家畜衛生センター, SIMMYT | |
| 2/20 (水) | | 帰 任 | |

2. 出席者名簿

(1) プロジェクト・リーダー

| | |
|--------|------------------|
| 森 敬四郎 | アルゼンチン国立漁業学校 |
| 尾形 保 | ブラジル農業研究 |
| 菊住 昇 | ブラジルサンパウロ林業研究 |
| 長沢 有晃 | チリ水産養殖 |
| 山田 誼 | チリ沿岸漁業訓練普及 |
| 天野 斬文 | ホンジュラス農業開発研修センター |
| 徳久 修一 | メキシコ家畜衛生センター |
| 五十嵐 孝典 | パラグアイ農業開発(CRIA) |
| 志水 貞夫 | パラグアイ農業開発(CEMA) |
| 山垣 興三 | パラグアイ林業開発 |
| 海老名 六郎 | パラグアイ家畜繁殖 |

(オブザーバー)

| | |
|------|---------------|
| 氏家 正 | ペルーアマゾン林業現地実証 |
|------|---------------|

(2) 来 賓 (在メキシコ大使館)

| | |
|-------|--------|
| 内藤 武 | 特命全権大使 |
| 杉山 洋二 | 公 使 |
| 小椋 敏勝 | 書 記 官 |

(3) 各省代表

天木直人 外務省経済協力局技術協力課企画官
吉井正武 農林水産省経済局国際協力課長

(4) 国際協力事業団

(本部)

渡辺 桂 林業水産開発協力部長
飯島正孝 研修事業部次長
大川義清 農林水産計画調査部農林水産計画課長
橋口次郎 農業開発協力部農業開発課長
佐伯靖彦 林業水産開発協力部水産業技術協力室長
前山洋右 調達部機材第二課長
九重達夫 企画部技術者管理課長
栗城俊之助 農林水産計画調査部農林水産計画課課長代理
二瓶義宗 農業開発協力部畜産開発課課長代理

(メキシコ事務所)

上原盛毅 所長
甲斐直樹 職員

3. 会議概要

昭和59年度農林水産業協力プロジェクト・リーダー会議(中南米地域)は、メキシコ国メキシコ市のマリア・イサベル・シェラトンホテルを会場として昭和60年2月14日から2月20日まで、プロジェクト・リーダー(12名、オブザーバー1名を含む)、在メキシコ日本大使館(2名)、外務省(1名)、農水省(1名)、JICA本部(9名)、メキシコ事務所(2名)計27名の出席を得て開催された。会議は熱心な討議と情報の交換、個々の打合わせが行われ、有意義にかつ盛会裏に終了した。

<第1日目>

(開会式)

大川農計課長の司会により進められ、出席者の紹介、スケジュールの説明の後、主催者側を代表して渡辺林開部長の挨拶があり、次いで在メキシコ日本大使館内藤大使、外務省天木技協課企画官、農林省吉井国協課長及びメキシコ事務所上原所長からそれぞれ挨拶が述べられた。

続いて、全体会議の議事進行に当たる議長、副議長の選出に入り、議長にブラジル・農業研究プロジェクトの尾形リーダー、副議長にチリ・沿岸漁業訓練普及プロジェクト山田リーダーが選出された。コーヒープレイクの後、尾形議長の挨拶があり、議題1、2、3の協議が行われた。

(挨拶要旨)

渡辺部長：中南米各地で、各分野で日々色々な困難の中で活躍されているリーダー各位に敬意を表します。

第14回農林業協力プロジェクトリーダー会議が当地メキシコで開催できたことを喜びと共に、臨席いただいている在メキシコ日本大使、メキシコ事務所長のご協力に感謝申し上げます。今回、外務省、農水省からのご出席もあり、事業国内においても企画、研修、調達等他部からの参加を得ているので、日頃リーダーの皆様が抱える関心事項、問題点等につき、十分な意見の交換をして戴きたい。過去における本会議の成果は予算の獲得、農林業関係事業の運営に大いに役立っており、将来への改善に継っているところである。農林業協力事業の最近の情勢として

- ① 予算関連
 - ① 安全保証への対応との観点から伸びている。
 - ② 国内世論や日本の国際社会の地位からアフリカ関係の予算が増加する。
- ② 経済技術協力の対象国（アフリカ、中国）が広がっていると共に協力分野が多様化（タイ・農協育成等）の傾向にある。
- ③ 協力事業の環境は、対象国の経済事情や政情からして決して明るい状況にない。今回の特別議題「ローカルコスト問題」を挙げたのも、かかる背景からである。
- ④ 事業団は59年8月十周年を迎えた。これまで順調な発展をしてきたと思われるが、今後は国際機関や他の援助国との国際競争を意識し、量から質への経済、技術協力に努める時期に入っている。

内藤大使：農林業協力プロジェクトリーダー会議が当地メキシコで開催されたことを喜ぶ。プログラムや渡辺部長の話しから、又参加メンバーからして実りある会議となると信ずる。

当メキシコは歴史もある国であり会議と共に広く見たり聞いたりして、楽しんで帰って戴きたい。

パラグアイ国大使として在バ中、農林業協力プロジェクト4件の発足に携わり、政府要人等と接する機会があったが、プロジェクト技術協力に対する関心は高く、期待も大きい。リーダー各位にあっても誠実かつ責任感をもって業務に当り、日本の国際的役割を果たして戴きたい。この事業を通じて日本が世界に大きな貢献を果たす一方で日本の利益も得られるものと思う。

今後の益々の事業拡大と日本と諸外国との友情が高まることを期待する。

天木企画官：昭和60年度予算は財政事情の厳しい折、政府開発援助予算は10%の伸びを示したことは関係者として心強く喜ばしい。なかでも無償と技術協力の力点が置かれて

いる。

技術協力事業は人と人とが基本になった技術移転で各リーダー、専門家の皆様は、まさにその最前線で活躍されているわけで、今回のリーダー会議では、皆様の現場の声を聞き、日頃机上の政策論に走りがちな本省における政策の企画立案に反映させたい。

最近の技術協力事業についての課題と感じている2～3点について、

- ① 無償資金協力事業と技術協力事業の連携について強化、拡大の方向で取り組んでいる。
- ② 無償資金協力の対象国はG N P (8 0 0 U S \$ 基準) で仕切っている。中南米諸国は一般に国民所得が高く、無償が馴染まない。対大蔵折衝では地域内協力性の強いプロジェクトにはG N P に無関係に無償が実施できるよう協議してきた。
- ③ 予算の伸びとも関連してプロジェクトに対する評価につき国内でも関心が高まっている。今後、事前調査の充実、相手国受入れ体制の充実、強化、及び専門家の努力を得る等により対外経済技術協力事業の国民的理解を深めてゆく必要がある。
- ④ プロジェクトの協力期間については、柔軟に対応する。目的達成の見通しがあれば延長も可能だし、逆になればR / D期間中でも協力を打ち切るプロジェクトもありえよう。
- ⑤ 会議出席に際し調べた資料の中で或る専門家の報告に7つの自戒が述べられていたが、専門家のご苦勞を感じた。東京サイドも皆様の立場の理解に努め、今後創造的（想像も含む）経済技術協力に心掛けたい。

吉井国際協力課長： 協力事業の最先端で昼夜ご苦勞されているリーダー各位に敬意を表する。

農林水産業分野の協力は農林水産省も最大の力を注いで進めている。①発展途上国の食糧不足の解決が政治、経済の安定 となる。②発展途上国の経済、社会の中心は農業振興に在り農業開発が基礎である。の2点が協力に当たっての基本的考えであるが協力相手国にその重要性は認識されているものの、政策の中で重点として採り上げられているかは必ずしも取り上げられているとは云いがたいが現状である。

更に我が国は輸入国であり、世界の農産物の需給関係の安定は我国の安定にも結び付いているということも重要な点である。以上の観点から農林水産省としても協力事業が拡大される中で農林水産業分野を重視している。

農林業の特色として息の長い協力が要求されること、先進国型の技術が求められているが、周辺事情（例えば農民を通じての技術移転等）の難しさや、政治、体制上の現実における難しさ等がある。

協力内容の変化としては

- ① 対象国の広がり、つまりアジア中心から中南米、中国、更にアフリカへと案件が増

えている。

- ② 分野の多様化、つまり従来、稲作中心の栽培、基盤整備からその他の作目、更に流通加工、農協育成等ソフト面への広がりがみられる。
- ③ 総合化が要求される。つまり農林業の技術が中心であるが、無償協力との有機的連繫化等の推進が今後益々要求される。

最後に農林省関連60年度予算について述べると、約60億円(伸び6.4%)確保した。内容はソフト面、つまり体制強化が中心となっており経済技術協力を側面から援助するものである。F.A.O等国際機関への援助強化が図られている。なお、農民後継者育成事業としての日本への招へい研修はアセアン諸国から好評を得ている。

この会議では現地体験に立脚した貴重な各リーダーの意見を発表され、今後への発展の糧となるよう希望する。

上原メキシコ事務所長よりは事務所の業務概要の紹介がなされた。

(全体会議)

- 議題1 昭和59年度事業実施状況について
- 議題2 昭和60年度予算の概要について

橋口農開課長から別添資料に基づいて説明がなされた。

イ. 59年12月末現在、プロジェクト方式技術協力事業(産開含む)は18カ国40件である。4月以降6件終了、5件新規発足済で更に年度内に数件の発足が見込まれる。

派遣専門家は延520名、研修員受入れ140名、機材供与額37億円が見込まれている。

ロ. 調査団は合計81件の派遣となるが、内訳は、事前14、実施協議9、実施設計9、計画打合14、巡回16、機械維持3、エバ11、基礎調査3、アフターケア2である。

ハ. 昭和57年度より予算化された国内協力体制整備事業について、昭和59年度整備状況は16委員会であり、ほぼ全プロジェクトがカバーされている。委員会の開催状況も多いもので3~4回開かれている。

ニ. 農林業協力事業のプロジェクト活動の円滑、効率化の為の各種事業として、①プロジェクト基盤整備費、②応急対策費、③技術普及広報費、④視聴覚教材等整備費、⑤適正技術開発研究費、⑥特殊案件実施計画費、⑦中堅技術者養成対策費、⑧技術交換費があり、59年度の実施状況は資料の通りである。

ホ. 昭和60年度プロジェクト関係予算及びその主な内容は、農林業協力事業 7,339,027千円(対前年比 105%)である。内容はプロジェクト件数51件(前年より1件増)、調査件数57件(同)、専門家派遣364名(25名増)、長期調査員42名(7人増)、専門家技術費支給対象の拡大(短期専門家にも支給する)、アフターケア件数3件(1件増)。

ヘ. その他関連事業の60年度予算では、研修員受入費 11,667百万円、その中味で受入れ人数4,420人(274人増)、滞在費の単価アップ(100円アップ)が認められた。

専門家の厚生福利費 460百万円 の中で新規に安全対策費として3百万円が認められた。

(質疑応答)

- イ. 研修員受入費の滞在費100円アップの内訳は、食費である(2,300円/日→2,400円/日)
- ロ. 安全対策費の内容は、治安対策として、防犯ベル等を考えているが、予算に限度があることから当面4名以上の専門家の居るプロジェクトで任期2年以上を対象としたい。
- ハ. 特殊案件の実施割合は全プロジェクトが実施しているわけではなく、実施時期もプロジェクトの進行状況等考慮も必要である。
- ニ. 国内支援委員会の報告はプロジェクトになされていないが今後改善する。又、支援委員会のメンバーのプロジェクト訪問については国内協力体制整備費予算では対応できないが、巡回指導で東南アジア地域に農業普及、養蚕、林業の三分野に1~2名派遣する計画である。又、従来より各種調査へのメンバーの参加に配慮はしてきている。

○ 議題3 「昭和60年度事業実施方針について

①経済技術協力の最近の課題については外務省経済協力局技術協力課 天木企画官より説明がなされた。

- イ. ODAの中期目標設定は過去2回実施された。1回目は、いわゆる3年倍増(1977年を基準年として1980年にはドルベースODA実績を倍とする)の目標設定がなされ、ほぼ達成をみた。2回目は鈴木総理の提唱を受け5カ年倍増(1980年代前半5カ年のODA実績総額を1970年代後半5カ年間総額の倍以上とする。)の目標設定がなされた。この間2回にわたる石油価格の値上げ、先進諸国の不況、非産油国の債務増大等困難な面もあったが、昭和60年度(1985年)予算対前年比110%の伸びにより目標の98%達成の見込みである。

現在、新規中期目標樹立に向けて検討が開始され、外務省としては財政当局とも交渉しつつ作成に努力中である。

- ロ. 政府開発援助の効果的実施と共に国民の理解を深める必要がある。

最近はODAの実施につき国会議員の関心も高まり現地視察もふえている。

更にジャーナリストのプロジェクト取材が増えている。この傾向は歓迎すべきことであるが万に一つでも間違った取材がなされた場合、その反響が大きいことを念頭に置くことが大切である。外務省では、機構改革に当り調査計画課を新設し(調査及び評価業務所掌)調査や評価に重点を置き結果の報告により外部理解に努めることとなった。又従来途上国からの援助要請待ちの姿勢であったが、積極的に援助案件を発掘、開発する方針へ転換している。具体的にはアフリカ地域での農業分野での協力、負債国での輸出力強化対策案件への取り組み、中・長期的国造りの一環としての人造りの強化等々である。

国内では100兆円の赤字財政を抱えている折、ODAの継続的増加について国民の理解

を得る必要があり、今の国際経済の情勢を見た場合も日本（貿易収支自由陣営の中で第Ⅱ位）が応分の負担を負う必要があること等の啓蒙と理解に努めたい。

ハ、我国には太平洋協力構想があり、1980年大平元総理の環太平洋構想が引き継がれている。一方米国でもこれからは太平洋の時代が叫ばれており、中曽根総理も、日米首脳会談等において提唱されているが、過去の歴史からアジア諸国の警戒、韓国やアジア諸国の参加問題等、政治的に難しい面が多い。

中曽根総理は次の四原則に基づく協力を提唱している。

- ① ASEANのイニシアティブの尊重
- ② 民間主導型
- ③ 経済・文化協力に限る（軍事、政治抜き）
- ④ 開かれたもの（特定国に限らない）

現実的にはアセアン拡大外相会議で討議された人造り協力（1984年7月合意）が具体的に進展をみている。

（質疑応答）

イ、最近ジャーナリストや評価チームの来訪が多くなっているが、その報告書等は、原則的に発表されている。今後JICAを通じプロジェクトへも送付できるようにする。

ロ、中南米はアメリカの裏庭と云われているが、日本の中南米への協力に対してのアメリカのとらえ方は戦略援助の型とか、特定地域（スポット的）援助を期待していることもある。しかし日本は戦略援助でなく民生安定が世界の安定化に結びつくものと主張している。米国とは年1回援助協議を開催している。

ハ、F.A.O等国際機関や米国との共同協力等（東北タイ農業開発等）複数国間による協力については今後は協調協力方式も必要視されてきているが、現状は援助方式に差があることや言語、思想等の違いもあることから役割分担をした型で実施されているが、本当の協調協力（Joint Style）はまだ先と思われる。

農水省もF.A.Oとの協力でF.A.Oの計画の中から選択したものにつき、専門家付きで資金の拠出を行なっている。

又、熱帯農業研究センターでは試験研究協力につき共同テーマに取り組んでいる。

- ② 研修事業の実施方策等について

研修事業部 飯島次長より

- ③ 供与機材調達業務について

調達部 前川機材第二課長より

- ④ 専門家の処遇について

企画部 九重技術者管理課長より

- ⑤ プロジェクト関連業務等について

林業水産開発協力部 佐伯水産室長より

各々配布資料に基づいて説明がなされた後、質疑応答があった。主な点は次の通り。

(質疑応答及び要望事項)

イ. 研修員受入れ事業については59年度より早期通報制度を採用し、改善がはかられた。集団コースについては5～6月各省会議を開催しコースや国別割当てを決めるため遅れる。

研修員の出国に当り出国税(ペルー300\$/人、メキシコはP.T.A扱い税70ペソ/人、パラグアイでは免税措置(5%)されている。)が課せられる支度金で賄っている場合もあるが、基本的にはローカルコスト負担等相手側制度により相手側負担によらざるを得ない。

プロジェクトのカウンターパートが第三国で研修する場合の研修経費負担は考えられない。(西独では実施している。)

ロ. 機材購送に当ってはB/Lの送付、特に航空便の場合、エア・ウェ・ビルの送付を早めにお願ひする。(ホンジュラス、メキシコ)

ハ. 役務契約の改正については、60年4月1日より実施することとしている。派遣中の専門家については任期延長時点で行なう。

なお、対象者より国家公務員は除いているが、国家公務員の派遣法との関係や各省庁との調整が未だ残されている為である。

契約書で云う秘密保持については、成果の発表許可申請様式等、決めていないが趣旨は成果は相手国政府に属するものであるという精神を尊重したもので具体的には各プロジェクト担当部で承認受ける。

在勤俸の改定については、従来為替レートの変動が激しく実態との差が生じる期間が長かったが、59年度よりは外務公務員の実施時期と同じに行なっている。

妻の一時呼寄せ制度についての要望が強いが派遣制度は同伴が原則的考え方にたっており子女とは同一にはとらえにくい。

妻の健康診断については派遣前後の診察経費制限しているが、再検経費は負担しており実質上は問題ないと思われる。

安全対策費については検討グループを発足させてその実施要領等検討してゆく。

ニ. 技術交換費の運用については初年度でもあり、実際の運用により改めるべき点も出てくるかもしれないが、第7項で基準外も本部承認で可能であるので前広に相談願ひたい。

㊦ 議題4 プロジェクトの現状と問題点については各リーダーより配布資料により説明あり

㊦ 議題5 特別議題

① 供与機材調達システムについて

② ローカルコスト確保対策について

については林業水産開発協力部 渡辺部長よりその趣旨説明がなされた後、各テーマの座長 ①海老名リーダー、②天野リーダーを選出し、討論に入った。

各リーダーより日頃の活動経験に基づいた活発かつ建設的な意見の交換が行われ、現状の分析、改善すべき方向とその方策についての提言がまとめられ別紙の通りの討議結果の報告が両座長よりなされた。

特別議題① 「供与機材調達システムについて」討議集約報告

座長 海老名 六 郎

プロジェクト協力で技術移転における供与機材のはたす役割は極めて大きい。以下の点につきリーダー側から現地での経験なりから有益な討議を期待すると前川機材調達課長の趣旨説明が行われた。

- ① プロジェクトが必要とする時期に機材が到着しない。
- ② 供与された機材が現地の事情に適合しない事例がある。
- ③ 仕様のツメが不十分なため現地に再照合する等購入までに時間を要する。
- ④ A 4 フォームの取付は提出が遅い。
- ⑤ 現地調達の拡大

以上の事から本部では機材業務改善委員会を発足させ、3月を目途に答申案を作成しこれに現地のリーダーの意見を反映させたいと趣旨が述べられた。これに対しリーダー側からの質議意見が述べられ要約すれば下記の通り

- ① A 4 フォームの取付けから本部での事務処理に限られた人員と期間で現地の要望を完全に満たす事は難しいのでA 4 フォームの一括取付け、外務省との実施協議の合理化、検収の合理化を図るべし。
 - ② 現地事情を理解する専門家が仕様のツメ、機種を選定を行うべきだが選定資材等が不備なので専門家OBなり、後方支援部隊にワーキンググループを個別に作りこれに依頼するとか一括外部機関への発注を行う事も検討すべしと提議された。
 - ③ 現地では選定、仕様書の詳細の完全を期する事には若干の問題あり、②同様ワーキンググループなり外部機関への発注とか、協力分野宛のマニュアルの作成が急務である。
 - ④ 今後はR/D時にA 4 フォームの一括取付けを行い、立ちあがりに多くしたいとの本部意見が出されたが、研究協力の様に現地ニーズが反映されてむしろ後半に多くの機械を供与してほしいとの意見が出された。
 - ⑤ 現地購入の迅速化に欠かせないのは本部からの資金の早期示達がすべてでありそのためにはプロジェクトサイトより現地購入資金の手続きを早くすべきである。
- 以上は主として日本側の問題が中心であったが、機材が現地に到着してから通関等の手続

きに長期間を要する問題が提起され、その解決策が種々出された。

- ① プロジェクトにおける機材供与は到着迄は日本側の責任で関税引出しは所有権のある相手国が第一義的に義務を負うものであるが、大使館 J C A . プロジェクトリーダーが一致協力して早期の通関に協力すべきである。
- ② その為、通関業務のキーパーソンが誰であるかを日常の業務から見定め、積極的な対人交友関係を作っておき、通関に支障をきたさず引取れる様、日常の活動を通じ友好関係の維持に努めるべきである。
- ③ 政府の首脳の交代にともなう人脈等の再建に手間取る等の問題は生ずるので C P 側にプロジェクト協力のシステムを充分理解させると共に通関に必要な予算確保、行動の迅速化を教育する。
- ④ 関係調査団、専門家派遣時等の活用による携行資材は一般に非常に迅速化が容易なので極力これの活用を図るが、私物と混同しない様に厳格な仕別けが必要である。

以上大きく二つの分野について活発な意見交換質疑応答が行われ、今後の機材調達の一層の迅速化、合理化を期待すると集約が行われた。

特別議題② 「ローカルコスト確保対策について」討議集約報告

座長 天野 斯文

低迷、悪化しつつある相手国側経済状勢をふまえ、プロジェクトの円滑な運営を図るためのローカルコスト確保については前回に引続き特にプロジェクトサイトにおけるローカルコスト捻出について精力的に討議が行われた。

各プロジェクトは夫々異なった条件下にあり、一律に整理することは難しいが、おおよそ主要意見を集約すれば次のごとくである。

1. ローカルコスト捻出について

- ① 協力期間中、プロジェクトを円滑に推進し、又その後の自立運営を継続させるため、本来の目的を損うことのない範囲でプロジェクトみずからローカルコスト捻出の手段を講じることはやむを得ないであろう。
- ② 基本的には政府間レベルで取決め確認しておくことが望まれるが、種々の問題が内在すると思われるので今後国内での検討が必要である。
- ③ 当面、実行にあたっては専門家側が内外の中傷、批判等により困難な立場に陥ることのないよう慎重に対処しなければならない。このためには相手国側の内部取決めによって収入の処理がなされるよう図るべきである。
- ④ プロジェクト収入が国庫に納入され、還付されぬケースにあっては、会計法上の規制外となるようプロジェクトの行政的性格変更の可能性を検討させることも一法であろう。

2. ローカルコスト負担各種制度関連

現在まで多くの支援制度が設けられているが、今後なお以下の諸点について検討が行われることが望まれた。

- ① カウンターパートの時間外勤務，補助員採用の源資手当が提起された。現地業務費の増額，枠組の拡大，弾力的運用等本部側で検討されたい。（JICA第三国研修以外）
- ② カウンターパートの近隣国研修についての支援経費。
- ③ 先進諸国及び国際機関の同様支援制度内容と比較されるケースがある。これらの実態を把握し，前向きに整合をはかられたい。

特別議題総括報告が両座長からなされた後，各省コメントがおこなわれ，第14回農林水産業協力プロジェクトリーダー会議の討議は終了し，続いて各プロジェクトとの個別協議が時間いっぱい続けられた。

（各省コメント要約）

外務省，天木企画官

各リーダー及び参加者の活発な意見を聞き大いに学ぶところがあった。

日頃，観念的になりがちな東京サイドとしては，認識を改め，技術協力の在り方について学ぶ点が多々あり，これを政策に反映させてゆきたい。

ローカルコスト確保問題では，プロジェクト運営にリーダーがどう，どこまで係わるのか等基本的な基準作りが必要と思われる点や，技術協力を実施する基本条件と国情に差のある現実とのギャップをどう解決してゆくか等，困難な問題があり今後の検討課題である。

もう一点はJICAへの注文として農林水産業部門だけでなく他部門にも共通する問題点が多いと感じたので，他部のリーダー会議の討議も含めて今後一つにまとめ，改善策の具体化に努力してほしい。

農林水産省 吉井国際協力課長

このリーダー会議を通じて各プロジェクトの共通の問題点が理解できた。

プロジェクト個々の性格が違う点，相手国事情が異なる点，相手国政府の諸々の関係者が係わり，プロジェクト担当者により大きく左右される点等，その実態や意見を聞いて，いかに技術協力が難しいかを理解できた。又これらの要因は評価の難しさにも結び付くものであろう。

もう一点は農林水産業分野の技術協力は結果が出るまで息の長い協力が必要であり，外務省とも協議してその扱いを考えてゆきたい。

又，専門家の皆様の苦勞に報いる為にも東京サイドの後方支援の重要性を痛感した次第でもある。

会議終了に当たり尾形議長から，毎年開催されるリーダー会議で討議される同じ問題点は根が深く深刻かつ難しいとの認識が必要で関係者は本気で取り組んでほしい。そして「意見は

行動へ」と移してほしいとの発言があり、最後に渡辺林開部長より参加者へのお礼の言葉が述べられ、閉会となった。

B アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域

1. 会議日程

| 月/日 | 時 間 | 議 事 等 | 担 当 者 |
|-------------|-------------|---|--|
| 2/26 (火) | | バンコック集合, 受付 | 事 務 局 |
| 2/27 (水) | 10:00~ | <p>〈開 会 式〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出席者紹介, スケジュール説明 ○主催者挨拶 ○来賓挨拶 <p style="padding-left: 40px;">在バンコック日本大使館 農林水産省</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外務省挨拶 ○文部省挨拶 ○バンコック事務所長挨拶 ○議長・副議長選出 | <p>議事進行 林林開課長 林林開課長 土屋農計部長</p> <p>山下公使 芦澤技術総括審議官 谷崎技術協力課首席 北村国際企画課海外協力官 後藤所長</p> |
| | ~11:20 | ○議長挨拶 | |
| | 11:20~11:30 | ○記念撮影 | |
| | 11:30~13:30 | (昼 食) | |
| | 13:30~13:50 | <p>〈全体会議〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○議題1 「昭和59年度事業実施状況について」 | <p>議事進行 議長 佐藤農技協課長</p> |
| | 13:50~14:10 | ○議題2 「昭和60年度予算の概要について」 | 林林開課長 |
| | 14:10~14:50 | <ul style="list-style-type: none"> ○議題3 「昭和60年度事業実施方針について」 ① 経済技術協力の最近の課題について (含質疑応答) | 谷崎外務省技協課首席 |
| | 14:50~15:00 | (休 憩) | |
| | 15:00~15:40 | ② 農林水産省の国際協力について (含質疑応答) | 菊池農水省海外技術協力 室長 |
| | 15:40~16:20 | ③ 文部省のJICAを通じる海外協力の現状に ついて (含質疑応答) | 北村文部省海外協力官 |
| | 16:20~17:00 | ④ 供与機材調達業務について (含質疑応答) | 上村調達部長 |
| | 17:00~17:40 | ⑤ 研修事業の実施方針等について (含質疑応答) | 塚田研修センター業務室 長 |
| | 17:40~18:20 | ⑥ 専門家の処遇について (含質疑応答) | 長瀬企画部技管課代理 |

| 月/日 | 時 間 | 議 事 等 | 担 当 者 |
|-------------|-------------|------------------------------------|---|
| | 18:20~18:50 | ⑦ プロジェクト関連業務等について (含質疑応答) | 佐藤農技協課長 |
| | 18:50~19:00 | ○事務連絡 | 事 務 局 |
| 2/28 (木) | | <全体会議> ○議題4 「プロジェクトの現状と問題点について」 | 議事進行 議長 |
| | 9:00~9:10 | ・ビル マ(1プロジェクト) | 関係リーダー |
| | 9:10~10:30 | ・インドネシア(8プロジェクト) | " |
| | 10:30~10:40 | (休 憩) | |
| | 10:40~10:50 | ・韓 国(1プロジェクト) | 関係リーダー |
| | 10:50~11:10 | ・マレーシア(2プロジェクト) | " |
| | 11:10~11:30 | ・フィリピン(2プロジェクト) | " |
| | 11:30~12:00 | ・タ イ(3プロジェクト) | " |
| | 12:00~14:00 | (昼 食) | |
| | 14:00~15:20 | ・タ イ(8プロジェクト) | 関係リーダー |
| | 15:20~15:30 | ・エジプト(1プロジェクト) | " |
| | 15:30~15:40 | ・タンザニア(1プロジェクト) | " |
| | 15:40~15:50 | ・フィジー(1プロジェクト) | " |
| | 15:50~16:00 | (休 憩) | |
| | 16:00~16:30 | ○質疑応答 ○議題5 「特別議題について」 | |
| | 16:30~16:50 | 特別議題趣旨説明 | 土屋農計部長 |
| | 16:50~16:55 | 座長選出 | |
| | 16:55~17:00 | ○事務連絡 | 事 務 局 |
| 3/1 (金) | | <分科会> ○特別議題 | 議事進行 座長 |
| | 9:00~12:00 | ① 「供与機材調達システムについて」 | |
| | 12:00~14:00 | (昼 食) | |
| | | ○特別議題 ② 「ローカルコスト確保対策について」 | |
| 3/2 (土) | | <閉会式> | 議事進行 議長 |
| | 9:00~10:00 | ○分科会報告 (含質疑応答) | 各 座 長 |
| | 10:00~11:00 | ○総括質疑 | |
| | 11:00~11:30 | ○各省コメント | 谷崎外務省技協課主席 菊池農水省海外技術協力 室長 北村文部省海外協力官 |
| | 11:30~11:35 | ○議長・副議長退任挨拶 | 議長・副議長 |

| 月/日 | 時 間 | 議 事 等 | 担 当 者 |
|--------------|--|--|--|
| 3 / 2 (土) | 11:35~11:45 | ○主催者挨拶 | 議事進行 林林開課長 |
| | 11:45~11:55 | ○バンコック事務所長挨拶 | 土屋農計部長 |
| | 11:55~12:00 | ○事務連絡 | 後藤 所長 事 務 局 |
| | 12:00~14:00 | (昼 食) | |
| | 14:00~ ~17:00 | ○議題6 「個別協議」 農 業 開 発 協 力 部 林 業 水 産 開 発 協 力 部 農 林 水 産 計 画 調 査 部 調 達 部 研 修 事 業 部 企 画 部 外 務 省 農 林 水 産 省 文 部 省 | 佐藤課長, 山県代理 林 課 長, 橋浦代理 土屋部長, 藤本代理 上村部長 塚田室長 長瀬代理 谷崎首席 菊池室長 北村協力官 |
| 3 / 3 (日) | | (休 日) | |
| 3 / 4 (月) | 9:00~12:00 | ○議題6 「個別協議」 | 同 上 |
| | 12:00~14:00 | (昼 食) | |
| | 14:00~ | 〈現地視察〉 | (別 紙) |
| 3 / 5 (火) | | 〈現地視察〉 | (") |
| 3 / 6 (水) | | 帰 任 | |

(別紙)

リーダー会議現地視察参加者割り振り

| 視察コース | 視 察 先 | プロジェクトリーダー等 | | 本 部 等 |
|---------------------|-------------------------------|--|---|-----------------------------------|
| 大 学 (農業研究) | タイカセサート大学 (カンペンセン) ほか | インドネシア農業研究 インドネシア作物保護 インドネシア農業開発リモートセンシング 韓国農業気象災害研究 タイ国立雑草科学研究所 タイカセサート大学(研究) タイカセサート大学(普及) タイカセサート大学(機械化) タイ東北農業開発研究 | 泉 山 陽 一 奈 須 壮 兆 三 根 稔 森 谷 睦 夫 野 田 健 児 川 口 桂 三 郎 長 井 次 雄 小 川 浄 寿 八 田 貞 夫 | 北 村 協 力 官 橋 浦 代 理 員 吉 村 職 員 |
| 農 業 (農業訓練 普及) | タイかんがい農業開 発(チャオピア)ほ か | ビルマ中央農業開発訓練センター インドネシア農業中堅技術者養成 インドネシアかんがい排水センター マレーシア水管理訓練 フィリピンボホール農業開発 タイかんがい農業開発 タイ農協振興 エジプト米作機械化 タンザニアキリマンジャロ農業開発 | 中 村 成 二 竹 内 博 石 坂 仁 兵 大 口 美 喜 男 安 尾 正 元 中 島 淳 一 郎 佐 藤 静 雄 山 中 孝 幸 井 上 淳 二 | 菊 池 室 長 上 村 部 長 佐 藤 課 長 |
| 畜 産 | タイ家畜衛生(バク チョン)ほか | インドネシア動物医薬品 タイ家畜衛生 | 須 藤 和 男 岡 本 哲 男 | 山 県 代 理 |
| 林 業 | タイ造林研究訓練 (ナコン・ラチャシ マ)ほか | インドネシア南スマトラ森林造成 フィリピンパンタバンガン林業開発 タイ造林研究訓練 タイ木材生産技術訓練 | 岡 部 広 二 大 崎 郁 次 郎 石 川 広 隆 石 原 文 夫 | 林 課 長 長 瀬 代 理 |
| 水 産 | タイ沿岸養殖(ソン クラ)ほか | インドネシア浅海養殖 マレーシア農科大学海洋水産学部 タイ沿岸養殖 フィジー水産養殖 | 吉 光 虎 之 助 川 村 軍 蔵 増 尾 致 和 斉 藤 宏 | 藤 本 代 理 |

2. 会議出席者

(1) プロジェクト・リーダー等

| | | |
|--------|--------|---------------|
| 中村 成二 | ビルマ | 中央農開訓練センター |
| 吉光 虎之助 | インドネシア | 浅海養殖 |
| 泉山 陽一 | インドネシア | 農業研究 |
| 竹内 博 | インドネシア | 農業中堅技術者養成 |
| 岡部 広二 | インドネシア | 南スマトラ森林造成 |
| 三根 稔 | インドネシア | 農業開発リモートセンシング |
| 奈須 壮兆 | インドネシア | 作物保護 |
| 石坂 仁兵 | インドネシア | かんがい排水センター |
| 須藤 和男 | インドネシア | 動物医薬品検定 |
| 森谷 睦夫 | 韓国 | 農業気象災害研究 |
| 大口 美喜男 | マレーシア | 水管理訓練 |
| 川村 軍蔵 | マレーシア | 農科大学海洋水産学部 |
| 大崎 郁次郎 | フィリピン | パンタバンガン林業開発 |
| 安尾 正元 | フィリピン | ボホール農業開発 |
| 岡本 哲男 | タイ | 家畜衛生 |
| 中島 淳一郎 | タイ | かんがい農業開発 |
| 川口 桂三郎 | タイ | カセサート大学(研究) |
| 野田 健児 | タイ | 国立雑草科学研究所 |
| 増尾 致和 | タイ | 沿岸養殖 |
| 小川 浄寿 | タイ | カセサート大学(機械) |
| 長井 次雄 | タイ | カセサート大学(普及) |
| 石川 広隆 | タイ | 造林研究訓練 |
| 石原文 夫 | タイ | 木材生産技術訓練 |
| 八田 貞夫 | タイ | 東北農業開発研究 |
| 佐藤 静夫 | タイ | 農協振興 |
| 田中 孝幸 | エジプト | 米作機械化 |
| 井上 淳二 | タンザニア | キリマンジャロ農業開発 |
| 斎藤 宏 | フィジー | 水産養殖 |

(2) 来賓

(大使館)

山下 新太郎
三宅 均

在タイ日本国大使館公使

在タイ日本国大使館一等書記官

(農林水産省)

芦沢利彰

農林水産省技術総括審議官

(3) 各省代表

谷崎泰明

外務省経済協力局技術協力課首席

菊池雅夫

農林水産省経済局国際協力課海外技術協力室長

北村幸久

文部省学術国際局国際企画課海外協力官

(4) 国際協力事業団

(本部)

土屋晴男

農林水産計画調査部長

上村昌司

調達部長

佐藤正仁

農業開発協力部農業技術協力課長

林久晴

林業水産開発協力部林業開発課長

塚田恒雄

研修事業部国際研修センター業務室長

藤本達男

農林水産計画調査部農林水産計画課長代理

山県正安

農業開発協力部畜産開発課課長代理

橋浦広志

林業水産開発協力部水産業技術協力室室長代理

長瀬勲

企画部技術者管理課課長代理

押山和範

大阪国際研修センター研修課

吉村浩司

農業開発協力部畜産開発課

鹿野正雄

経理部財務第一課

(バンコック事務所)

後藤教基

バンコック事務所長

甲斐寿治

バンコック事務所職員

菊池文夫

バンコック事務所職員

(オブザーバー)

大畠幸

農業開発計画専門家

斎藤俊樹

水資源開発計画専門家

安藤宇一

タイ造林研究訓練プロジェクト・リーダー

井口尚樹

農業普及専門家

沼田正道

農業機械専門家

3. 会議概要

<第1日目>

(開会式)

開会式は、林業開発課長の司会により進められた。まず出席者全員の紹介、会議スケジュール

の説明の後、主催者を代表して土屋農計部長の挨拶があり、次いで来賓の在バンコック日本大使館山下公使及び農林水産省芦沢技術総括審議官からそれぞれ挨拶を受けた。続いて外務省経済協力局技術協力課谷崎首席、文部省学術国際局国際企画課北村海外協力官及び後藤バンコック事務所長の挨拶があり、議長・副議長の選出に入った。議長には、タイカセサート大学（研究）プロジェクトの川口リーダー、副議長にはタイかんがい農業開発プロジェクトの中島リーダーが選任され、議長挨拶、記念撮影を行って午前の日程を終了した。

（議題 1, 2, 3）

同日午後の全体会議では、議題 1.「昭和 59 年度事業実施状況」について佐藤農技協課長が、また議題 2.「昭和 60 年度予算の概要」について林林開課長が配布資料に基づきそれぞれ説明の後、議題 3.「昭和 60 年度事業実施方針」に入った。外務省谷崎主席は経済技術協力の最近の課題について、農水省菊池海外技術協力室長は農林水産省の国際協力について、文部省北村海外協力官は文部省の JICA を通じる海外協力の現状について、JICA の上村調達部長から供与機材調達業務について、塚田研修センター業務室長から研修事業の実施方針等について、長瀬企画部技管課課長代理から専門家の処遇について、佐藤農技協課長からプロジェクト関連業務等についてそれぞれ各省及び JICA の方針の説明があり、リーダーとの間で質疑応答が行われた。説明要旨及び質疑応答要旨は次のとおり。

<第 2 日目>

（議題 4.）

会議 2 日目は、「プロジェクトの現状と問題点」について、各リーダーからそれぞれ説明が行われた。

（議題 5.）

その後、土屋農計部長から明日協議される議題 5 の特別議題「供与機材調達システムについて」及び「ローカルコスト確保対策について」の趣旨説明が行われた。

○ 特別議題趣旨

1. 供与機材調達システムについて

(1) 技術移転の中で供与機材の占める役割は大きい。一方、① プロジェクトが必要とする時期に機材が到着しない、② 供与された機材が現地の事情に適合しない事例がある、③ 仕様の詰めが不十分であるため現地に再照会するなど購入までに時間を要する、④ 故障したが、なかなか修理されない、⑤ A-4 フォームの提出が遅いなど供与機材をめぐる問題は多く、早急に改善する必要がある。

(2) このような背景から機材業務改善委員会作業部会において上記(1)に述べた諸点を中心に機材調達システムの改善策を検討してきており、その素案がまとまりつつあるのでその内容を説明させていただくとともに、プロジェクトリーダーの御意見をお伺いしたい。同時

にプロジェクトサイドからみた現行機材調達業務の問題点を挙げていただくとともにそれらに対する改善策をまとめていただき、上記委員会作業部会の検討に反映させたい。

(3) 討議は次の要領ですすめることとする。

ア. 機材業務改善委員会作業部会において検討中の改善策の説明及びこれに対する質疑、意見交換

イ. 別添質問表に基づく討議

(ア) 本部調達の問題点と改善策

(イ) 現地調達の問題点と改善策

2. ローカルコスト確保対策について

ローカルコスト問題は、前年度のリーダー会議の特別議題として、相手国側に対するローカルコスト確保のための有効な方策を模索するとともに、我が国からのローカルコスト支援について検討がなされた。

それらの検討結果は、①事業規模の適正化、②各種調査団による交渉、③大使館、JICA事務所ルートによる申し入れ、④合同委員会、定例会議等の活用、⑤ローカルコスト支援措置の充実（特に新規予算項目の要求）等として集約されたが、プロジェクトにおけるローカルコスト捻出の方策については具体的検討がなされるまでには至らなかった。

我が国のローカルコスト予算の負担にも自ら限度があり、かつ受益国側の財政事情もにわかに改善の見通しが無い状況の下で、プロジェクトの自立的な発展と将来相手国に引渡したあとの健全な運営を期待するためにも、ローカルコストの確保について一層努力しなければならない。

このような状況の下で、本来R/D等の主旨に則り先方負担の原則を貫く努力を継続しつつも、ローカルコスト確保の現実的な方策として各々のプロジェクトの実態に応じたプロジェクト関連施設の生産物（製品）販売等によるローカルコスト捻出もその一つとして検討に値するものと思われる。

そこで本年度は、ローカルコストの実態把握とともに、ローカルコスト捻出の検討をすすめることとして、別添様式2の事項を中心に討議していただき、結果を取りまとめていただきたい。

続いて、各分科会の座長の選出に入り、第1分科会（試験・研究）ではインドネシア作物保護プロジェクトの奈須リーダー及びインドネシア農業開発リモートセンシングプロジェクトの三根リーダーが、第2分科会（実証・訓練・普及）ではタンザニアキリマンジャロ農業開発プロジェクトの井上リーダー及びエジプト米作機械化プロジェクトの田中リーダーがそれぞれ選出された。

<3日目>

各リーダー、各省出席者、JICA関係者は第1分科会及び第2分科会に分かれ、前日趣旨説

明のあった特別議題2題について討議を行った。両分科会における討議結果は次のとおり。

○ 第1分科会報告

| | |
|---------|---------------------|
| 泉 山 陽 一 | インドネシア農業研究 |
| 三 根 稔 | インドネシア農業開発リモートセンシング |
| 奈 須 壮 兆 | インドネシア作物保護 |
| 須 藤 和 男 | インドネシア動物医薬品検定 |
| 吉 光 虎之助 | インドネシア浅海養殖 |
| 森 谷 睦 夫 | 韓国農業気象災害研究 |
| 川 村 軍 蔵 | マレーシア農科大学海洋水産学部 |
| 野 田 健 児 | タイ国立雑草科学研究所 |
| 八 田 貞 夫 | タイ東北農業開発研究 |
| 川 口 桂三郎 | タイカセサート大学（研究） |
| 小 川 浄 寿 | タイカセサート大学（機械） |
| 岡 本 哲 男 | タイ家畜衛生 |
| 石 川 広 隆 | タイ造林研究訓練 |
| 増 尾 致 和 | タイ沿岸養殖 |
| 斎 藤 宏 | フィジー水産養殖 |
| 谷 崎 泰 明 | 外務省技術協力課首席 |
| 菊 池 雅 夫 | 農水省国際協力課技術協力室長 |
| 北 村 幸 久 | 文部省海外協力官 |
| 上 村 昌 司 | JICA 調達部長 |
| 佐 藤 正 仁 | “ 農技協課長 |
| 山 県 正 安 | “ 畜開課課長代理 |
| 鹿 野 正 雄 | “ 財務1課 |
| 吉 村 浩 司 | “ 畜開課 |

A. 供与機材調達システムについて

1. 本部調達の問題点と改善点

(1) 迅速性

- 和文リストを提出しておおむね1年を経て機材がプロジェクトへ到着している。
- 手続きの1段階で6ヶ月以上を経たものはなかったが、各段階とも手続きの迅速化をはかる具体的な対策を講ずべきであろう。
- 機材引き取りの為の予算はおおむね相手国側で確保されている。

(2) 型式、性能等

- 要請した機材の型式・性能の違いが、かなり認められる

(3) 補修関係

- 研究用機器の故障による長期の使用不能の例が出ている。
- 原因と対策は夫々の条件で異っている。
- 修理と保守管理の具体策実行が望まれる。
- 現地代理店のアフターサービスで特に問題のところはない。

(4) 予算等

- 上限一億円方式はプロジェクトにより画一的でないほうがよい。
- A4 form 一括提出方式は可能なプロジェクト又は機材とそうでない場合とがあり、可能な場合は推進されてもよい。

2. 現地調達の問題点と改善点

(1) 現地調達額

- その割合は4～60%の間で、プロジェクトにより異なる

(2) 現地調達を多くする方向

- 賛成のプロジェクトが多いが、労力・手続きで問題がある。又本来、この方向をとらないプロジェクトもある。

(3) 自国産品優先政策

- その方向にある。

(4) 現地調達機材免税措置

- 実行は困難

(5) 現地代理店のアフターサービス

- 大きなトラブルは起きていない。

(6) 現地調達の問題点とその改善案

- 手続きの簡素・迅速化、事業団内部で具体策を講じられたい。すなわち、担当職員の専門化、相見積り・確認書、契約書等の取り扱いの合理化等。

3. 無償資金協力による機材が供与

(1) 現地アフターサービスの状況

- 全般的に問題は少ないが、一部にトラブルがあり、又もともとアフターサービスを受けられない場合もある。

(2) その機材の選定とプロ技協

- プロ技協発足前に選定された場合と協議が行なわれた場合があり、それによって条件が異っている。

ま と め

1. 本部調達の問題点と改善点

手続きの迅速化については、本部の実情と意図を受けて現地でも努力する。特に A-4 form の処理に留意する。これに関して関係方面への具体的な働きかけを本部でも起してほしい。

A-4 form の一括提出は可能な場合、物品から実行することとする。

2. 現地調達の問題点と改善点

○現地調達の拡大をはかるに当って、その手続きの統一化・簡素化をはかる具体的策を講じられたい。

○プロ技協による機材供与の本筋に混乱を生じないよう処置を講ぜられたい。

3. 無償資金協力による機材

○今後、この方向が拡充されるとすれば、より一層の事前の打合せが必要である。

B. ローカルコスト確保対策について

1. ローカルコストの実態

(1) プロジェクトに対する相手国側の年間予算

○費目・額の明らかな場合から相手側の通常予算と分け難い場合とがあり、プロジェクトの形態・運営の方法によって夫々異っている。

(2) 明確になっていない場合、その理由

○同 上

(3) 年間どのくらいの運営費が必要か

○プロジェクトはむしろ予算に合わせて業務を伸縮している。

(4) 我が国のローカルコスト負担額と負担率

○負担額は別として、負担率の算出はその基準により異なる。

(5) 相手国側の財政事情の悪化による事業量の縮小

○現在大巾な縮小を強いられたプロジェクトはないが、予算の削減はかなり起っている。

(6) ローカルコスト支援経費 相手側 通報

○大部分のプロジェクトは通報していないが、一部は全額通報して問題ない場合もある。

(7) 有効なローカルコスト負担のアイデア

○各種の対策費、研究費が提案され、更に短期専門家の現地活動費の新設が提案された。

2. ローカルコスト捻出の検討

○案として業務活動で得られた収益金の活用が提案されたが、その目的・内容の明確な業務の場合には別として、一般の活動、特に研究協力では、ほとんど不可能であろうとされた。

む す び

ローカルコスト負担の現状と、プロジェクト活動の中からの検出が検討された。しかし、これの具体的方策は容易でない。

以上の外に Ind. K. R. 積立金の問題、協定・R/Dで合意されている相手国側の責務の実施等も論議された。

○ 第2分科会

| | |
|----------|------------------|
| 中 村 成 二 | ビルマ中央農業開発訓練センター |
| 竹 内 博 | インドネシア農業中堅技術者養成 |
| 石 坂 仁 兵 | インドネシアかんがい排水センター |
| 岡 部 広 二 | インドネシア南スマトラ森林造成 |
| 大 口 美喜男 | マレーシア水管理訓練 |
| 安 尾 正 元 | フィリピンボホール農業開発 |
| 大 崎 郁次郎 | フィリピンバンタワンガン林業開発 |
| 中 島 淳一郎 | タイかんがい農業開発 |
| 佐 藤 静 夫 | タイ農協振興 |
| 長 井 次 雄 | タイカセサート大学（普及） |
| 石 原 文 夫 | タイ木材生産技術訓練 |
| ○田 中 孝 幸 | エジプト稲作機械化 |
| ○井 上 淳 二 | タンザニアキリマンジャロ農業開発 |

（○印は座長）

| | |
|---------|-----------------|
| 土 屋 晴 男 | JICA 農計部長 |
| 林 久 晴 | ” 林開課長 |
| 塚 田 恒 雄 | ” 国際研修センター業務室長 |
| 藤 本 達 男 | ” 農計課課長代理 |
| 橋 浦 広 志 | ” 水産室課長代理 |
| 長 瀬 勲 | ” 技管課課長代理 |
| 押 山 和 範 | ” 大阪国際研修センター研修課 |

A. 第2分科会 討議要旨

1. 供与機材調達システムについて

1) 迅速化

- (1) A4フォームの早期提出については、プロジェクト側よりむしろ相手国政府内の手続きに問題があるとみられるので、迅速化のためには JICA 事務所及び大使館が相手国へ

の働きかけが望まれる。

- (2) 通関手続きに関しては、国により著しく異なっているので、それぞれのプロジェクトでよりよい改善策を考える必要がある。
- (3) 輸入禁止品目や早期発注品は別個に発送する必要がある。
- (4) JICA 担当者の側にも問題があるのではないか。
- (5) プロジェクトと本部との連絡をより密に、また迅速にすべきであろう。

2) 型式・性能等

- (1) 銘柄指定のためには、より具体的理由を記載する必要がある。
- (2) 指示書を詳しく記載するとともに、参考データ使用目的、メーカーの電話番号及び情報照会先の記述等も本部に通報する必要がある。
- (3) 英文説明書を必ず機材とともに送付するよう要望があった。
- (4) 要求品と異なる品目が送付されたことがある。
- (5) プロジェクト発足時の機材で遊休化しているものがある。
- (6) 機材要求リストで適当な和名がないため英文による場合もあるが了解して欲しい。
- (7) 部品の補給ルートをつけて欲しい。

3) 予 算^{*}

- (1) プロジェクト活動開始時に割当てを多く、以後漸減すべきとの意見が多かったが、その反対の意見もある。
- (2) 一億円の枠については、こだわらない方がよいとの考え方が多かった。
- (3) 供与機材の予算枠については他の支援予算費目に比較して満足のプロジェクトが殆んどであった。
- (4) 或るプロジェクトでは機材購入よりむしろ研修資材の購入に予算を廻すよう要望があった。

4) A4フォーム^{*}

- (1) フォームをまとめて提出する案については各プロジェクトで意見が異なり、従来通り単年度毎提出、部分的にまとめて提出及び全年分一括提出の三種類に分れた。
- (2) A4フォームを同一年度に追加して提出する場合もあり得る。
- (3) A4フォームの型式はコロンプランで決められたもので、日本だけで変更することは出来ない。

② 現地調達^{*}

- (1) 現地調達は可能な限り増したいとするプロジェクトが多い。
- (2) 価格が本部調達より高くなる場合もある。
- (3) 見積書の取付及び本部への決裁方法についての改善意見が多く出された。
- (4) アフターサービスには問題がある。

予算及び現地調達のアンケート回答*

| プロジェクト名 | 予 算 | | 現 地 調 達 | | |
|------------------|---------|--------------------------|--------------|-------------------|-----------------------------|
| | 年間一億円可否 | A1フォームを当初全期或いは2～3年まとめて提出 | 機材供与額中に占める現調 | 現調を多くする方向 | 現調の問題点とその改善策 |
| ビルマ 中央農開訓練 | × 傾斜配分 | ○ 補足・訂正の途要 | 5 | ○ 安価なもの | 契約手続の簡素化 |
| インドネシア 中堅技術者 | ○ | ○ 毎年現地事情で修正必要 | 95 | ○ 価格割高品質劣る | " |
| インドネシア かんがい排水 | ○ | × 単年制 | 47 | ○ | 手続簡素化と迅速化 |
| マレーシア 水管理 | × 傾斜配分 | ○ メンバーが不変な場合のみ | 32 | ○ | JICA事務所の業務とし、専門家の事務量を減らす要あり |
| 南スマトラ 森林造成 | × 傾斜配分 | ○ | 79.5 | ○ | 日本に比べ機種不足 |
| フィリピン ボホール農業 | ○ | ○ 単年制 × (活動により機材変化) | 20 | ○ | 見積りから契約までの間に価格変動恐 迅速化要す |
| フィリピン 林業開発 | ○ | × 進捗状況との関連 | 13 | ○ 消耗品 ○ 緊急要の場合 | 契約手続の簡素化 |
| タイ かんがい農業 | × 傾斜配分 | ○ | 26 | ○ | 調達の促進 年度当初に資金示達 |
| タイ 農協振興 | × 傾斜配分 | | 20 | ○ | |
| カセサート大学 普及 | × 傾斜配分 | × 単年制 | 25 | ○ | |
| タイ 木材生産訓練 | × 傾斜配分 | ○ 修正可能なよう改訂要あり | 12.5 | ○ | 年次修正要あり |
| エジプト 米作機械 | ○ | × 進捗状況に合わせて出す | 4 | ○ | 契約手続の簡素化 |
| タンザニア キリマンジャロ | ○ | × " | 0 | × 現調は不可能 | |

免税処置については可能なプロジェクトと不可能なプロジェクトがある。

③ 無償資金協力

- (1) 建物以外は可能な限りプロ協で見べきである。
- (2) 保守点検を相手国で十分にやらない。
- (3) 部品の補給を考えて欲しい。

機材業務改善委員会作業部会報告書案については、アンケート並びに上記討議意見をふまえての作成を要望する。

B. 第2分科会 討議要旨

2. ローカルコスト確保対策について

議長 井上 淳 二

① ローカルコストの実態

- (1) 相手国の国全体としての予算が逼迫しているのので、打つべき手がない。
- (2) JICA 事務所及び大使館でR/D通りの予算確保を相手国に交渉してほしい（昨年度要望と同じ）

② 支援費を通報しているかどうか

- (1) ほとんどのプロジェクトが中堅費、応急対策費以外は知らせていない。
- (2) JICAとしては(1)でよいと考えている。

③ 支援対策費について

- (1) 新しいアイデアとして現地調査費、社会基盤整備費、ほん訳者雇用費、抄外費等の要望が出された。
- (2) 中堅費の漸減方式は相手側にはあまり効果がない。
- (3) 中堅費の予算割当て時期のずれから相手国予算とダブる場合がでてきている。

④ ローカルコストの捻出

- (1) 肥料・農薬を Fund として回転する案はどうか。
- (2) 食糧増産対策費をプロジェクトに廻す案については、プロジェクトからの要請ではなく、国と国との協定時に条件を付けなければ出来ないことはない。
- (3) Fund の貸し倒れが懸念される。

<第4日目>

前日行われた特別議題の討議結果が各分科会座長から報告され、続いて会議4日間を通じての総括討議及び各省出席者からのコメント、議長、副議長の退任挨拶の後閉会式に入った。

(閉会式)

主催者を代表して土屋農林水産計画調査部長から、また、開催地を代表して後藤バンコック

事務所長から挨拶を受け、4日間にわたる会議を終了した。

(議題6)

閉会式の後、各リーダーと各プロジェクト担当課との間で60年度事業計画等の個別協議が行われた。

<第6日目、第7日目>

(現地視察)

各リーダー及び東京からの会議出席者は、タイ国で実施中の農林水産業プロジェクトにつき、次の5コースに分かれて視察旅行を行った。

- (1) 農業研究コース：タイカセサート大学 (カンパンセン)
- (2) 農業訓練普及コース：タイかんがい農業開発 (チャオピア)
- (3) 畜産コース：タイ家畜衛生 (パクチョン)
- (4) 林業コース：タイ造林研究訓練 (ナコンラチカシマ)
- (5) 水産コース：タイ沿岸養殖 (ソンクラ)

II 第14回農林水産業協力プロジェクトリーダー会議実施要領

1. 目的

農林水産業に係る技術協力プロジェクトにつき各プロジェクトの現状、問題点、対応策等の検討及び相互の経験交流を行うとともに、昭和60年度の事業計画の検討を行い、もって農林水産業技術協力事業の円滑かつ効果的な推進に資することを目的とする。

2. 開催期日、場所

(1) アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域：タイ・バンコック市

昭和60年2月27日(水)～3月5日(火)

(2) 中南米地域：メキシコ・メキシコ市

昭和60年2月14日(木)～2月19日(火)

3. 出席予定者

(1) アジア・中近東・アフリカ リーダー等 28名(出席者リスト 別紙1)

・太平洋地域

関係省

外務省、農水省、文部省、大使館

JICA

理事、農林三部ほか、JICA事務所

(2) 中南米地域

リーダー等

12名()

関係省

外務省、農水省、大使館

JICA

農林三部ほか、JICA事務所

4. 会議の運営等

(1) 事務局は農林水産計画調査部農林水産計画課に置く。

(2) 会議の効率的運営を図るためにアジア・中近東・アフリカ・太平洋地域については、別紙1の区分による分科会を設ける。

5. 議題(議事日程 別紙2)

(1) 昭和60年度予算の概要について

(2) 昭和59年度事業実施状況について

(3) プロジェクト事業の基本方針について

(4) プロジェクトの現状と問題点について

(5) 特別議題について

(6) 昭和60年度事業計画について(個別協議)

別紙 1

1. アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域

(1) リーダー等

| 分科会名 | プロジェクト名 | リーダー等氏名 | | | | | | | |
|---------------------|---------------------|-----------|---|---|---|---|---|---|----|
| 第1分科会 (試験・研究) | インドネシア農業研究 | リ | ー | ダ | ー | 泉 | 山 | 陽 | 一 |
| | インドネシア農業開発リモートセンシング | リ | ー | ダ | ー | 三 | 根 | | 稔 |
| | インドネシア作物保護 | リ | ー | ダ | ー | 奈 | 須 | 壯 | 兆 |
| | インドネシア動物医薬品検定 | リ | ー | ダ | ー | 須 | 藤 | 和 | 男 |
| | インドネシア浅海養殖 | リ | ー | ダ | ー | 吉 | 光 | 虎 | 之助 |
| | 韓国農業気象災害研究 | リ | ー | ダ | ー | 森 | 谷 | 睦 | 夫 |
| | マレーシア農科大学海洋水産学部 | リ | ー | ダ | ー | 川 | 村 | 軍 | 蔵 |
| | タイ国立雑草科学研究所 | リ | ー | ダ | ー | 野 | 田 | 健 | 児 |
| | タイ東北農業開発研究 | リ | ー | ダ | ー | 八 | 田 | 貞 | 夫 |
| | タイカセサート大学(研究) | リ | ー | ダ | ー | 川 | 口 | 桂 | 三郎 |
| | タイカセサート大学(機械) | リ | ー | ダ | ー | 小 | 川 | 浄 | 寿 |
| | タイ家畜衛生 | アドバイザー | | | | 岡 | 本 | 哲 | 男 |
| | タイ造林研究訓練 | チーフアドバイザー | | | | 石 | 川 | 広 | 隆 |
| | タイ沿岸養殖 | リ | ー | ダ | ー | 増 | 尾 | 致 | 和 |
| フィジー水産養殖 | リ | ー | ダ | ー | 齊 | 藤 | | 宏 | |
| 第2分科会 (実証・訓練・普及) | ビルマ中央農業開発訓練センター | リ | ー | ダ | ー | 中 | 村 | 成 | 二 |
| | インドネシア農業中堅技術者養成 | リ | ー | ダ | ー | 竹 | 内 | | 博 |
| | インドネシアかんがい排水センター | リ | ー | ダ | ー | 石 | 坂 | 仁 | 兵 |
| | インドネシア南スマトラ森林造成 | チーフアドバイザー | | | | 岡 | 部 | 広 | 二 |
| | マレーシア水管理訓練 | リ | ー | ダ | ー | 大 | 口 | 美 | 喜男 |
| | フィリピンボホール農業開発 | リ | ー | ダ | ー | 安 | 尾 | 正 | 元 |
| | フィリピンバンタワンガン林業開発 | チーフアドバイザー | | | | 大 | 崎 | 郁 | 次郎 |
| | タイかんがい農業開発 | リ | ー | ダ | ー | 中 | 島 | 淳 | 一郎 |
| | タイ農協振興 | リ | ー | ダ | ー | 佐 | 藤 | 静 | 夫 |
| | タイカセサート大学(普及) | リ | ー | ダ | ー | 長 | 井 | 次 | 雄 |
| | タイ木材生産技術訓練 | リ | ー | ダ | ー | 石 | 原 | 文 | 夫 |
| | エジプト米作機械化 | リ | ー | ダ | ー | 田 | 中 | 孝 | 幸 |
| タンザニアキリマンジャロ農業開発 | リ | ー | ダ | ー | 井 | 上 | 淳 | 二 | |

(注) このほか、若干名のオブザーバーが出席する。

(2) 関係省及び JICA

外務省, 農水省, 文部省, 大使館

JICA 本部 (理事, 農林三部ほか), JICA 事務所

2. 中南米地域

(1) リーダー等

| プロジェクト名 | リーダー等氏名 |
|------------------------|------------|
| アルゼンチン国立漁業学校 | リーダー 森 敬四郎 |
| ブラジル農業研究 | " 尾 形 保 |
| ブラジルサンパウロ林業研究 | " 苅 住 實 |
| チリ水産養殖 | " 長 沢 有 晃 |
| チリ沿岸漁業訓練普及 | " 山 田 諠 |
| ホンジュラス農業開発研修センター | " 天 野 斯 文 |
| メキシコ家畜衛生センター | " 徳 久 修 一 |
| パラグアイ農業開発 (CRIA) | " 五十嵐 孝 典 |
| パラグアイ農業開発 (CEMA) | " 志 水 貞 夫 |
| パラグアイ林業開発 | " 山 垣 興 三 |
| パラグアイ家畜繁殖 | " 海老名 六 郎 |
| ペルーアマゾン林業現地実証 (オブザーバー) | " 氏 家 正 |

(2) 関係省及び JICA

外務省, 農水省, 大使館

JICA 本部 (理事, 農林三部ほか), JICA 事務所

別紙 2

1. アジア・中近東・アフリカ・太平洋地域

| 月 日 | 午 前 | 午 後 | 備 考 |
|--------------|--|------------------------------------|-------|
| 2月26日 (火) | (バンコック市へ集合) | | |
| 2月27日 (水) | 受付 開会式 挨拶 | < 全体会 > 本部説明 (議題(1), (2), (3)) | |
| 2月28日 (木) | プロジェクト活動報告 (議題(4)) | < 全体会 > 同 左 質疑応答 特別議題趣旨説明 | |
| 3月 1日 (金) | < 分科会 > 特別議題 (議題(5)) | | |
| 3月 2日 (土) | < 全体会 > 分科会報告 質疑応答・各省コメント 閉会式 | < 個別協議 > (議題(6)) | |
| 3月 3日 (日) | < 休 日 > | | |
| 3月 4日 (月) | < 個別協議 > (議題(6)) | < 現地視察 > | ※ 参 照 |
| 3月 5日 (火) | < 現地視察 > | | |
| 3月 6日 (水) | (帰 国) | | |

| ※ 分 野 | 視 察 先 |
|-------|---------------------|
| 農 業 | タイかんがい農業開発 (チャオピア) |
| 大 学 | タイカセサート大学 (カンペンセン) |
| 畜 産 | タイ家畜衛生 (パクチョン) |
| 林 業 | タイ造林研究訓練 (ナコンラチャシマ) |
| 水 産 | タイ沿岸養殖 (ソンクラ) |

2. 中南米地域

| 月 日 | 午 前 | 午 後 | 備 考 |
|--------------|--------------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 2月13日 (水) | (メキシコ市へ集合) | | |
| 2月14日 (木) | | 受 付 開会式 挨拶 | |
| 2月15日 (金) | 本部説明 (議題(1), (2), (3)) 質疑応答 | プロジェクト活動報告 (議題(4)) | |
| 2月16日 (土) | 特 別 議 題 (議題(5)) | | |
| 2月17日 (日) | <休 日> | | |
| 2月18日 (月) | 各省コメント 閉会式 | 個別協議 (議題(6)) | |
| 2月19日 (火) | <現 地 視 察> | | メキシコ 家畜衛生 センター CIMMYT |
| 2月20日 (水) | (帰 国) | | |

